

第 46 回家族会

令和元年 9 月 28 日 土曜日に第 46 回目の家族会を開催いたしました。今回は「育児休暇を取得して見えた高齢者の役割」をテーマに、理学療法室主任の関野 PT にお話ししていただきました。

参加者は患者さん、ご家族 13 名、スタッフ 6 名、合計 19 名でした。

講演では、男性の育児休暇取得の実情を、欧米諸国と比較しながら説明してくれました。ユニセフによると、日本の育児休業制度は世界でも No. 1 の評価を得ているとのこと。しかし、実際に制度を利用している男性は 5.14% しかいないそうで、ノルウェーなどは 90% を示しており、日本はヨーロッパに比べるととても低いのが現状です。

日本男性の育児休暇の取得率が低い原因は、業務が繁忙だったり、職場が育児休暇を取得する雰囲気でなかったりと様々だそうで、男性が育児休暇を取得するためには職場の理解が必要であるとのことでした。



日本は 2020 年までに取得率 13% を目指していますが、まだまだ達成には程遠い状況です。そんな中、今年度の当院の PT 室の育児休暇の取得率は 75% であり、日本の目標を大幅に達成することができております。これは PT 室の上司をはじめ、院長、統括など職場としての理解や、快く業務を代わりに行ってくれた理学療法室のスタッフのおかげだと思います。私も取得させていただいた身であり、職場の環境や理解ある上司に恵まれたことを大変うれしく思います。

関野 PT が話しておりましたが、育児休暇中の生活は、就業中の生活と違い、子供と接する時間が圧倒的に増えたとのことでした。その結果、お子さんは『パパっコ』になったとのこと、うらやましい限りです。母親の大変さを理解する上でも育児休暇を取得することはとても意味があることだと思います。家事や育児を分担することが夫婦関係や、家族を継続していくのには必要なことだと思います。

「申し訳ないなんて思わなくていいよ、二人の子供なのだから」

ある方が自分の趣味のために、子供や夫をお家に残して外出する際に言われた旦那さんの言葉です。他部署の方から聞いた言葉なのですが、その言葉を聞いて私はとても感銘を受けましたし、男としても敵わないと思いました。「自分ではとても言えないな」と。こんな言葉をさらっと言えるような男性になれるよう今後も努力していきたいと思います。

文責 原田

